

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	スペースゆう（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	利用者が公表日の段階でいないが、職員の聞き取りから作成した		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	名	(回答者数) 名
○従業者評価実施期間	2026年1月1日 ～ 2026年2月28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	河添理論に裏打ちされた 「毎日の体ほぐし」	個人や集団、はう動きから体ほぐしまで、午前中に体を動かす時間をふんだんに取り入れ、心も体もスイッチを入れて整っていく。無理に運動をさせるのではなく、子どもが楽しく参加できるような声掛けや環境づくりを意識している。	河添理論18行動の中から、子どもの様子や発達段階に合わせて内容を工夫しながら取り入れ、継続的に学びやすい体を構築していく。また職員間で実践を共有し、より効果的な取り組みとなるよう改善を重ねていく。
2	子どもの伸びようとする育つ力を信じる 「共に育つ協育の場」	子ども一人ひとりの良さや可能性に目を向け、できたことや挑戦したことを大切にしながら関わることを意識している。保護者とも子どもの様子を共有し、共に子どもの成長を支える関係づくりを大切にしている。	子ども・保護者・支援者が安心して関われる場となるよう、日々のコミュニケーションや情報共有を大切にしながら、支援の質の向上を図っていく。
3	苦手な課題にもコツコツチャレンジSST 「その気スイッチ」	子どもが苦手意識を持つ場面でも、「まだ身についていないだけ」という意識の下、できることから少しずつ挑戦できるような段階的な支援を行っている。成功体験を積み重ねながら、自信や意欲につながる関わりを大切にしている。	子どもの興味や関心を大切にしながら、遊びや日常の活動の中でSSTの要素を取り入れ、無理なく自然に社会性やコミュニケーションの力が育つよう工夫していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在は利用児がいないため 実際の支援実績がまだないこと	開所準備期間であり、実際の子どもへの支援を通じた環境設定や活動内容の検証がまだ十分に行えていないため。現在は職員間で支援の考え方や支援手順の確認を行っている段階である。	日々の振り返りを通して活動内容や環境設定を検証し、支援方法を見直していく。また、定期的に職員間でケース検討や振り返りの時間を設け、子どもの実態に応じた支援内容の改善につなげていく。
2	地域交流や他施設交流など 地域との具体的な活動実績が少ないこと	現在は利用児がいないため、地域行事への参加や他施設との交流活動を実施する機会がまだないため。	利用開始後は、地域行事や近隣施設との交流活動などを検討し、子どもが地域の中で活動する機会を広げていく。また、同法人の事業所である「あい児発」「ゆう放デイ」との交流活動なども検討。
3	保護者同士の交流機会がまだないこと	現在は利用児および保護者がいないため、保護者会や交流機会を設けることができていないため。	利用開始後は、保護者面談や日々の連絡を通して子どもの様子を丁寧に共有するとともに、保護者同士が情報交換できる機会を検討していく。また、保護者向けの情報提供やミニ勉強会などを行う予定。